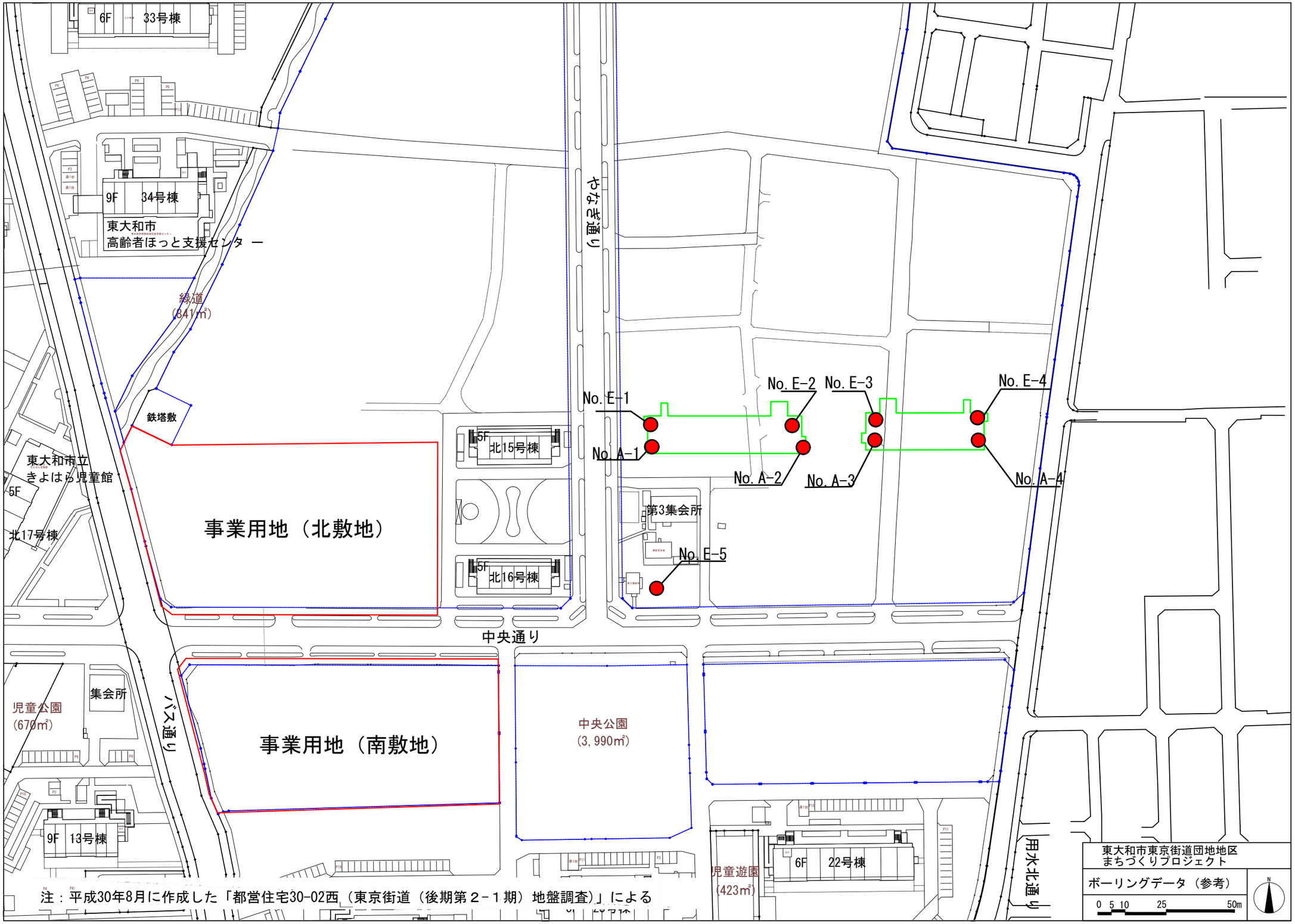
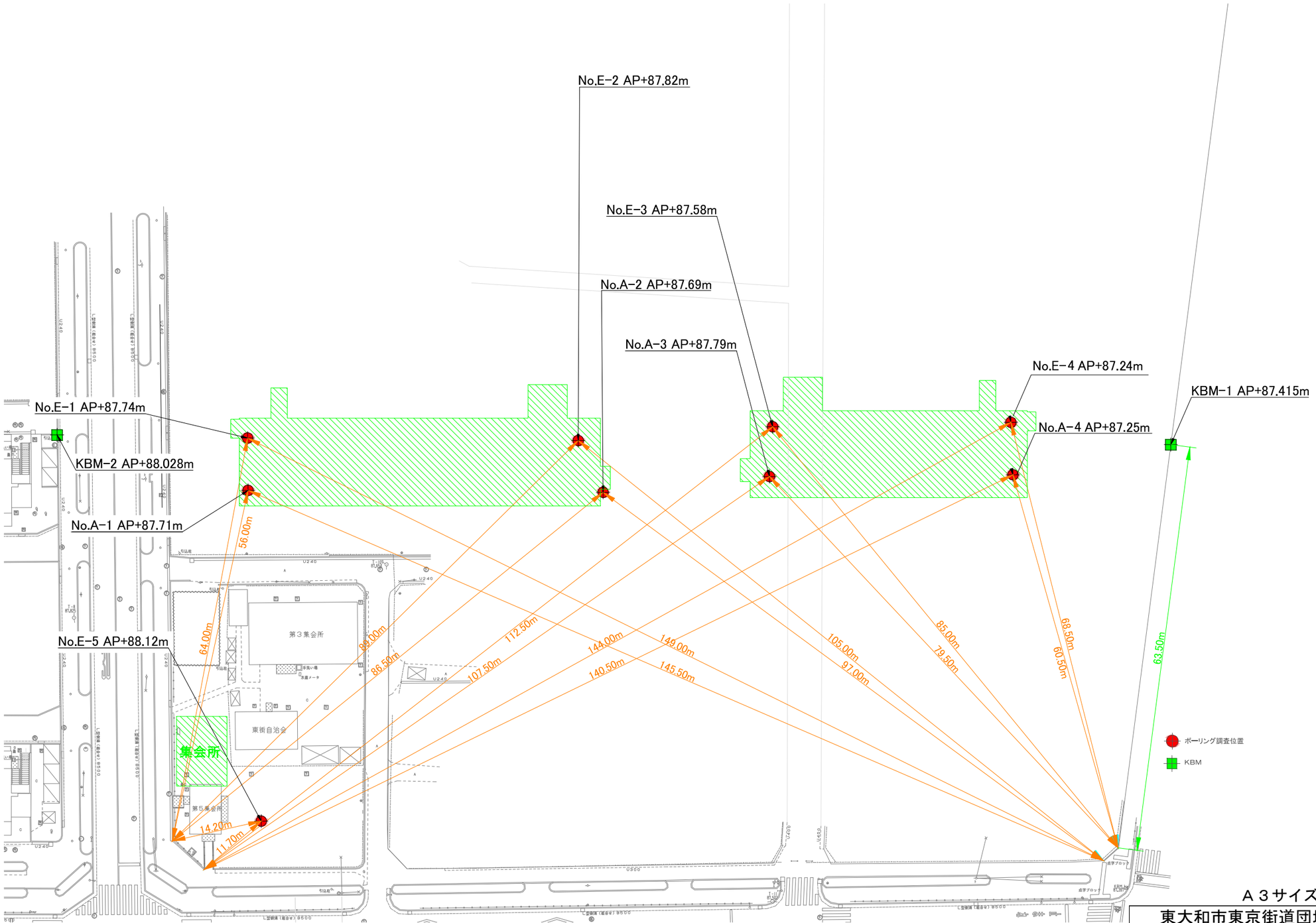


注：平成30年8月に作成した「都営住宅30-02西（東京街道（後期第２－１期）地盤調査）」による



Ａ３サイズで表記スケール

東大和市東京街道団地地区
まちづくりプロジェクト

ボーリングデータ（参考）

1：600

0　5　10　25m

ボーリング柱状図

調査名	都営住宅30-02西（東京街道（後期第2-1期））地盤調査
事業・工事名	
ボーリングNo	
シートNo	

ボーリング名	No.A-1	調査位置	東京都東大和市清原一丁目1番ほか	北緯	35° 44' 36"
発注機関	東京都西部住宅建設事務所	調査期間	平成 30年 6月 27日 ～ 30年 6月 30日	東経	139° 26' 58"
調査業者名		主任技師		現場代理人 / コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	AP +87.71m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機：東邦D0-D / ハンマー落下用具：半自動落下装置		
総掘進長	25.45m		エンジン：ヤンマーNFD-10EK / ポンプ：カノV6-B		

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	86.21	1.50	1.50	盛土（粘性土混じり礫質土）	暗褐灰			礫・ガラ・玉石等が多量に混入している。色調は乱れている。
2～5	82.46	3.75	5.25	ローム	暗茶褐～茶褐		非常に軟らかい～軟らかい	含水・粘性中位。スコリア・軽石粒等の炭化物が混入する。3m付近より茶褐色に変化する。
6～25	62.26	20.20	25.45	粘土混じり砂礫	褐灰～黄褐灰	密な～非常に密な		径5～40mm亜円礫・亜角礫からなる。マトリックスは細～中砂である。径80～100mmの玉石が点在する。GL-10～11m間はやや逸水量が多い。GL-12m付近より、少量の粘土分が混じる。深度方向に漸次粘土分が多くなる。
26								

孔内水位(m)／測定月日

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.65～1.97	1	2/16	1/6	4/32	4
2.15～2.47	1/13		1/9	3/32	3
3.15～3.47	1/18	1/14		2/32	2
4.15～4.47	1/13	1	1/9	3/32	3
5.15～5.45	1	10	17	28/30	28
6.15～6.45	12	13	17	42/30	42
7.15～7.29	35	25/4		60/14	129
8.15～8.45	15	16	23	54/30	54
9.15～9.45	16	15	13	44/30	44
10.15～10.42	20	21	19/7	60/27	67
11.15～11.45	17	20	19	56/30	56
12.15～12.45	9	10	14	33/30	33
13.15～13.45	13	14	14	41/30	41
14.15～14.26	40	20/1		60/11	164
15.15～15.45	12	7	17	36/30	36
16.05～16.21	34	26/6		60/16	113
17.15～17.45	17	17	16	50/30	50
18.15～18.45	8	12	24	44/30	44
19.15～19.45	14	16	22	52/30	52
20.15～20.44	12	23	25/9	60/29	62
21.15～21.45	8	12	13	33/30	33
22.15～22.45	11	14	17	42/30	42
23.15～23.35	35	25		60/20	90
24.15～24.42	22	23	15/7	60/27	67
25.15～25.45	16	13	22	51/30	51

原位置試験

深度(m)	試験名および結果

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
1.00～1.50	C-1		物理/締固め/コーン指数	
2.15～2.47	A1-1	Ⓟ	α1	
4.15～4.47	A1-2	Ⓟ	α1	
6.15～6.45	A1-3	Ⓟ	α2	6/27
12.15～12.45	A1-4	Ⓟ	α2	6/28
16.05～16.21	A1-5	Ⓟ	α2	
21.15～21.45	A1-6	Ⓟ	α2	6/29
				6/30

ボーリング柱状図

調査名	都営住宅30-02西（東京街道（後期第2-1期））地盤調査
事業・工事名	
ボーリングNo	
シートNo	

ボーリング名	No.A-2	調査位置	東京都東大和市清原一丁目1番ほか			北緯	35° 44' 36"
発注機関	東京都整備住宅建設事務所			調査期間	平成 30年 7月 3日 ～ 30年 7月 10日	東経	139° 27' 0"
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	AP +87.69m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0°	使用機種	
総掘進長	25.45m					試錐機	東邦D0-D	ハンマー落下用具	半自動落下装置
						エンジン	ヤンマーNFD-10EK	ポンプ	カノV6-B

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	85.99	1.70	1.70		盛土(黒ボク)	褐黒～茶褐主体			表層30cmは茶褐色ロームの盛土である。それ以深は黒ボクが主体であるが、礫・玉石・ガラなどが多量に混じる。玉石やガラの大きさは径100～300mm前後に達している。
2	81.94	4.05	5.75		ローム	暗茶褐～茶褐		非常に軟らかい～軟らかい～中位	含水・粘性中位。スコリア・軽石粒等の炭化物が混入する。上部と下部で色調が若干変化する。GL-3.0m付近より、茶褐色に変化する。
6	68.69	13.25	19.00		粘土混じり砂礫	褐灰	中ぐらい		径5～40mm亜円礫や亜角礫からなる。所々、径50～100mmの玉石が点在する。マトリックスは細～中砂である。GL-8～9m間、若干逸水が認められる。それ以深でも不規則に逸水あり。GL-12.5m付近、チャート質の玉石が混在する。
19	65.99	2.70	21.70		粘土質砂礫	黄褐灰	非常に密な～密な		径5～40mm亜円礫や亜角礫が主体である。径100mm玉石が点在する。マトリックスは細～中砂が主、所々粘土分が混じる。最深部では礫と粘土が凝固状を呈する。
22	62.24	3.75	25.45		粘土混じり砂礫	黄褐灰			5～40mmの亜円・亜角礫主体 最大100mm前後が点在する マトリックスは細～中砂主体、所々粘土分が混じる。礫とマトリックスは結状している
26									

孔内水位(m)／測定月日

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.65	1	1		2	1
2.06	38	13		41	
2.15	11		9	30	3
2.45					
3.15	1	1		2	2
	20	14		34	
3.49					
4.15	1	1	1	3	2
	19		8	37	
4.52					
5.15	2	2	2	6	6
	12		9	31	
5.46					
6.15	14	18	22	54	54
				30	
6.45					
7.15	22	25	13	60	69
			6	26	
7.41					
8.15	10	13	12	35	35
				30	
8.45					
9.15	10	16	15	41	41
				30	
9.45					
10.15	20	20	19	59	59
				30	
10.45					
11.15	34	26		60	90
				20	
11.35					
12.15	14	18	28	60	64
			8	28	
12.43					
13.15	18	25	17	60	67
			7	27	
13.42					
14.15	25	28	7	60	82
			2	22	
14.37					
15.15	20	40		60	106
		7		17	
15.32					
16.15	34	24	2	60	86
			1	21	
16.36					
17.15	25	16	19	60	60
				30	
17.45					
18.15	27	28	5	60	82
			2	22	
18.37					
19.15	6	4	4	14	14
				30	
19.45					
20.15	10	9	5	24	24
				30	
20.45					
21.15	3	11	12	26	26
				30	
21.45					
22.15	27	21	12	60	75
			4	24	
22.39					
23.15	22	25	13	60	78
			3	23	
23.38					
24.15	15	30	15	60	82
			2	22	
24.37					
25.15	11	12	13	36	36
				30	
25.45					

原位置試験

深度(m)	試験名および結果

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
1.00	C-2		物理/締固め/コーン指数	7/3
1.50				
3.15	A2-1	Ⓟ	α1	
3.49				
5.15	A2-2	Ⓟ	α1	
5.46				
6.15	A2-3	Ⓟ	α2	
6.45				
8.15	A2-4	Ⓟ	α2	7/4
8.45				
13.15	A2-5	Ⓟ	α2	
13.42				7/5
19.15	A2-6	Ⓟ	α2	
19.45				7/9
				7/10

ボーリング柱状図

調査名	都営住宅30-02西（東京街道（後期第2-1期））地盤調査
事業・工事名	
ボーリングNo	
シートNo	

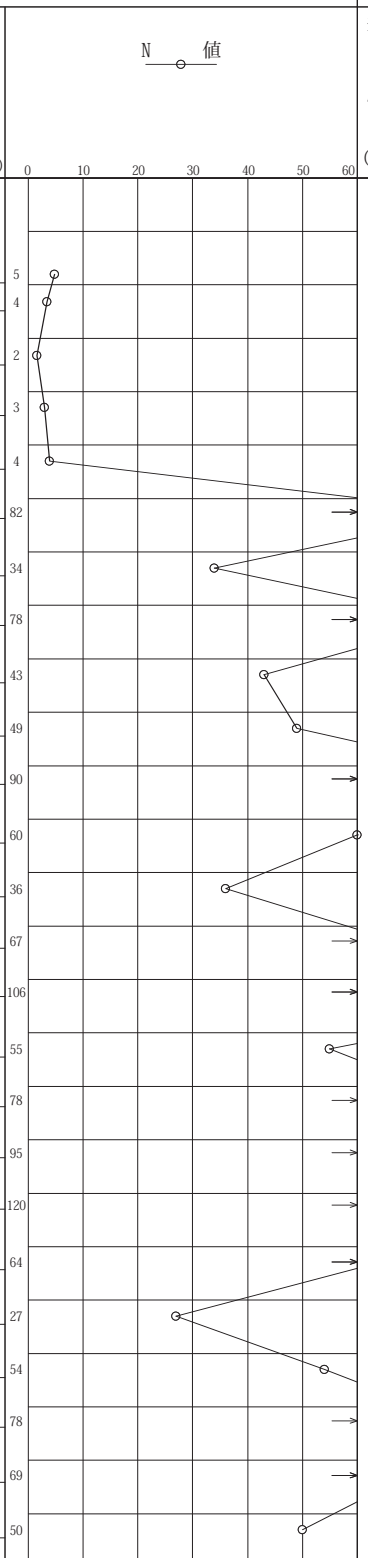
ボーリング名	No.A-3	調査位置	東京都東大和市清原一丁目1番ほか			北緯	35° 44' 36"
発注機関	東京都西部住宅建設事務所			調査期間	平成 30年 7月 12日 ～ 30年 7月 18日	東経	139° 27' 1"
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	AP +87.79m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機	東邦D0-D	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	25.45m								エンジン	ヤンマーNFD-10EK	ポンプ	カノV6-B

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	87.09	0.70	0.70		盛土（黒ボク）	黒褐			礫が少量混じる。色調がやや乱れる。
1～5	82.24	4.85	5.55		ローム	暗茶褐～茶褐		非常に軟らかい～軟らかい	含水・粘性中位。スコリア、軽石粒等の炭化物が混入する。GL-3.0m以深、茶褐色を呈する。
6～25	62.34	19.90	25.45		粘土混じり砂礫	褐灰	密な～非常に密な		径5～40mm亜円礫や亜角礫が主体である。径100mm前後の玉石が点在する。マトリックスは細砂～中砂である。GL-6.7m付近、チャート質玉石あり。GL-6.7m以深、若干逸水する。GL-14m付近より、粘土分が不規則に混入する。GL-21.1～21.35m間、礫混じり粘土が挟在する。GL-21.35m以深、礫とマトリックスが凝固状を呈する。
26									

孔内水位(m)／測定月日

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.65～1.96	2/12	2/13	1/8	5/31	5
2.15～2.49	1/11	1/9	2/14	4/34	4
3.15～3.50	1/21	1/14		2/35	2
4.15～4.45	1/13	1	1/7	3/30	3
5.15～5.45	2/17	2/13		4/30	4
6.15～6.37	18	32	10/2	60/22	82
7.15～7.45	9	10	15	34/30	34
8.15～8.38	18	29	13/3	60/23	78
9.15～9.45	15	16	12	43/30	43
10.15～10.45	18	13	18	49/30	49
11.15～11.35	33	27		60/20	90
12.15～12.45	17	23	20	60/30	60
13.15～13.45	11	12	13	36/30	36
14.15～14.42	21	20	19/7	60/27	67
15.15～15.32	35	25/7		60/17	106
16.15～16.45	17	17	21	55/30	55
17.15～17.38	22	28	10/3	60/23	78
18.15～18.34	24	36/9		60/19	95
19.15～19.30	35	25/5		60/15	120
20.15～20.43	18	20	22/8	60/28	64
21.15～21.45	1/12	1	25/8	27/30	27
22.15～22.45	18	17	19	54/30	54
23.15～23.38	22	25	13/3	60/23	78
24.15～24.41	17	23	20/6	60/26	69
25.15～25.45	10	17	23	50/30	50



原位置試験

深度(m)	試験名および結果

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
1.00～1.50	C-3		物理/締固め/コーン指数	
1.65～1.96	A3-1	Ⓟ	α1	
4.15～4.45	A3-2	Ⓟ	α1	
7.15～7.45	A3-3	Ⓟ	α2	7/12
11.15～11.45	A3-4	Ⓟ	α2	
17.15～17.38	A3-5	Ⓟ	α2	7/13
21.15～21.45	A3-6	Ⓟ	α2	7/17
				7/18

ボーリング柱状図

調査名	都営住宅30-02西（東京街道（後期第2-1期））地盤調査
事業・工事名	
ボーリングNo	
シートNo	

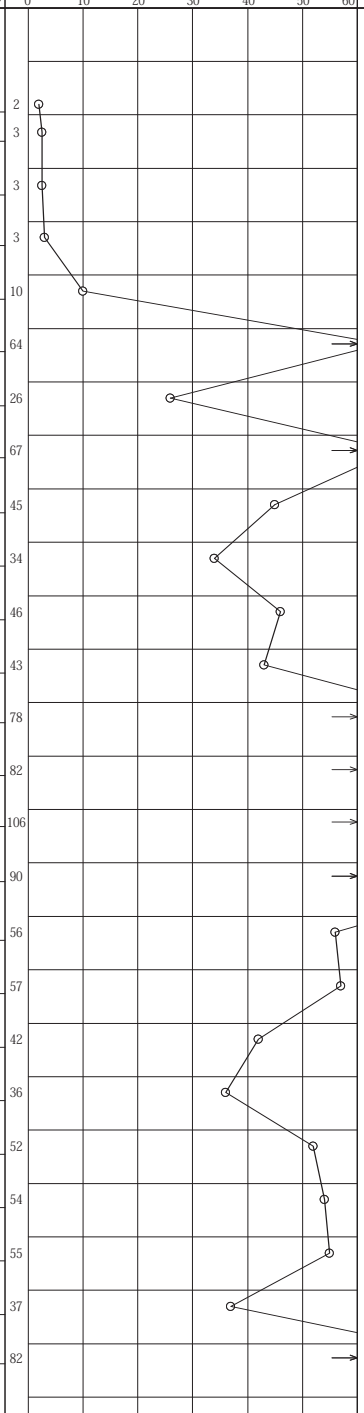
ボーリング名	No.A-4	調査位置	東京都東大和市清原一丁目1番ほか			北緯	35° 44' 36"
発注機関	東京都西部住宅建設事務所			調査期間	平成 30年 7月 12日 ～ 30年 7月 17日	東経	139° 27' 3"
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	AP +87.25m	角度	180°上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	鉛直 90° 水平0° 0°	使用機種	試錐機	東邦D0-D	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	25.38m								エンジン	ヤンマーNF-12	ポンプ	カノV6

標高(m)	層厚(m)	深度(m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
86.65	0.60	0.60	盛土（ローム）	暗茶褐			表層15cm砕石、以深はローム主体である。
81.85	4.80	5.40	ローム	暗茶褐～茶灰		軟らかい	上部20cmは黒ボク（旧表土）である。 粘性・含水中位。ほぼ均質である。 若干色調が変化する。 炭化物が少量混入する。
68.75	13.10	18.50	粘土混じり砂礫	黄茶褐	中ぐらい～密な～非常に密な		径5～30mm亜円礫が主体である。 GL-7.3～-7.6m間、粘土分がやや卓越する。 GL-7.8～-8.5m間、GL-11.0～-12.0m間、GL-12.5～-13.5m間、所々逸水する。 所々、径100mm前後の玉石が点在する。 GL-17.5～-17.65m間、硬質な礫が混在する。 GL-17.65m以深、逸水激しい。
61.87	6.88	25.38	粘土質砂礫	黄褐	密な～非常に密な		径5～25mm亜円礫が主体である。 GL-19.0m付近、若干逸水あり。 GL-22.0～-23.0m間も若干逸水あり。 GL-24.5m以深、砂分がやや卓越する。

孔内水位(m)／測定月日

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.65～1.95	1/20	1		2/30	2
2.15～2.50	1/15	1	1	3/35	3
3.15～3.50	1	1	1/15	3/35	3
4.15～4.45	1	1	1	3/30	3
5.15～5.45	1	2	7	10/30	10
6.15～6.43	20	21	19/8	60/28	64
7.15～7.45	12	9	5	26/30	26
8.15～8.42	14	24	22/7	60/27	67
9.15～9.45	18	14	13	45/30	45
10.15～10.45	13	10	11	34/30	34
11.15～11.45	18	13	15	46/30	46
12.15～12.45	11	14	18	43/30	43
13.15～13.38	25	24	11/3	60/23	78
14.15～14.37	24	27	9/2	60/22	82
15.15～15.32	31	29/7		60/17	106
16.15～16.35	34	26		60/20	90
17.15～17.45	16	17	23	56/30	56
18.15～18.45	17	22	18	57/30	57
19.15～19.45	15	17	10	42/30	42
20.15～20.45	11	12	13	36/30	36
21.15～21.45	12	16	24	52/30	52
22.15～22.45	17	15	22	54/30	54
23.15～23.45	18	20	17	55/30	55
24.15～24.45	17	11	9	37/30	37
25.15～25.37	23	28	9/2	60/22	82



原位置試験

深度(m)	試験名および結果

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
1.00～1.50	C-4		物理/締固め/コーン指数	
2.15～2.50	A4-1	Ⓟ	α1	
4.15～4.45	A4-2	Ⓟ	α1	
6.15～6.43	A4-3	Ⓟ	α2	7/12
10.15～10.45	A4-4	Ⓟ	α2	
14.15～14.37	A4-5	Ⓟ	α2	7/13
20.15～20.45	A4-6	Ⓟ	α2	7/14
				7/17

ボーリング柱状図

調査名	都営住宅30-02西（東京街道（後期第2-1期））地盤調査
事業・工事名	
ボーリングNo	
シートNo	

ボーリング名	No.E-1	調査位置	東京都東大和市清原一丁目1番ほか			北緯	35° 44' 36"
発注機関	東京都西部住宅建設事務所			調査期間	平成 30年 6月 30日 ～ 30年 7月 3日	東経	139° 26' 58"
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	AP +87.74m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0°	使用機種	
総掘進長	6.00m					試錐機	東邦D0-D	ハンマー落下用具	半自動落下装置
						エンジン	ヤンマーNFD-10EK	ポンプ	カノV6-B

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60	原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
	87.34	0.40	0.40		盛土																		
1					ローム														1.50	E1-1	①	γ1	6/30
2																		孔内水平載荷試験	2.30				
3																	3.00		3.35				
4																		孔内水平載荷試験	4.15	E1-2	①	γ1	
5	82.54	4.80	5.20														4.50						7/2
6	81.74	0.80	6.00		砂礫																		7/3
7																							

ボーリング柱状図

調査名	都営住宅30-02西（東京街道（後期第2-1期））地盤調査
事業・工事名	
ボーリングNo	
シートNo	

ボーリング名	No.E-2	調査位置	東京都東大和市清原一丁目1番ほか			北緯	35° 44' 36"
発注機関	東京都西部住宅建設事務所			調査期間	平成 30年 7月 11日 ～ 30年 7月 12日	東経	139° 27' 0"
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	AP +87.82m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0°	使用機種	試錐機	東邦D0-D	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	6.00m								エンジン	ヤンマーNFD-10EK	ポンプ	カノV6-B

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60	原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
	87.12	0.70	0.70		盛土																		
1					ローム														1.50	E2-1	Ⓣ	γ1	アノ3
2																		孔内水平載荷試験	2.30				
3																	2.70		3.10	E2-2	Ⓣ	γ1	
4																		孔内水平載荷試験	3.90				
5	82.57	4.55	5.25														4.50						アノ11
6	81.82	0.75	6.00		砂礫																		アノ12
7																							

ボーリング柱状図

調査名	都営住宅30-02西（東京街道（後期第2-1期））地盤調査
事業・工事名	
ボーリングNo	
シートNo	

ボーリング名	No.E-3	調査位置	東京都東大和市清原一丁目1番ほか			北緯	35° 44' 36"
発注機関	東京都西部住宅建設事務所			調査期間	平成 30年 7月 18日 ～ 30年 7月 20日	東経	139° 27' 1"
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	AP +87.58m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	
総掘進長	6.00m					試錐機	東邦D0-D	ハンマー落下用具	半自動落下装置
						エンジン	ヤンマーNFD-10EK	ポンプ	カノV6-B

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	87.18	0.40	0.40		盛土				
1					ローム				
2									
3									
4									
5	82.08	5.10	5.50						
6	81.58	0.50	6.00		砂礫				
7									

孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60

原位置試験 深度(m)	試験名および結果
2.70	孔内水平載荷試験
4.50	孔内水平載荷試験

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
1.50	E3-1	Ⓣ	γ1	ア18
2.30				
3.20	E3-2	Ⓣ	γ1	
4.00				
				ア19
				ア20

ボーリング柱状図

調査名	都営住宅30-02西（東京街道（後期第2-1期））地盤調査
事業・工事名	
ボーリングNo	
シートNo	

ボーリング名	No.E-4	調査位置	東京都東大和市清原一丁目1番ほか			北緯	35° 44' 36"
発注機関	東京都西部住宅建設事務所			調査期間	平成 30年 7月 17日 ～ 30年 7月 18日	東経	139° 27' 3"
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	AP +87.24m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0°	使用機種	試錐機	東邦D0-D	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	6.00m								エンジン	ヤンマーNF-12	ポンプ	カノV6

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1	85.74	1.50	1.50		盛土					
2					ローム					
3										
4										
5	81.74	4.00	5.50							
6	81.24	0.50	6.00		砂礫					
7										

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60

原位置試験 深度(m)	試験名および結果
2.50	孔内水平載荷試験
4.50	孔内水平載荷試験

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
3.00	E4-1 別孔	Ⓓ	γ1	7/17
4.00				
4.00	E4-2 別孔	Ⓓ	γ1	
4.90				7/18

ボーリング柱状図

調査名	都営住宅30-02西（東京街道（後期第2-1期））地盤調査
事業・工事名	
ボーリングNo	
シートNo	

ボーリング名	No.E-5	調査位置	東京都東大和市清原一丁目1番ほか			北緯	35° 44' 34"
発注機関	東京都西部住宅建設事務所			調査期間	平成 30年 7月 19日 ～ 30年 7月 20日	東経	139° 26' 58"
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	AP +88.12m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0°	使用機種	試錐機	東邦D0-D	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	6.00m								エンジン	ヤンマーNF-12	ポンプ	カノV6

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60	原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
	87.42	0.70	0.70		盛土																		
1																							アン 19
2																			2.00				
3					ローム														2.85	E5-1	Ⓓ	γ1	
4																			3.50	E5-2	Ⓓ	γ1	
5																			4.30				
6	82.12	5.30	6.00																				7/20
7																							